

## 第39回熊本第一ライオンズ旗争奪熊本県中学生選抜バレーボール大会

### 審判上の確認事項

審判委員長

1. 本大会は、2025年度（公財）日本バレーボール協会6人制競技規則および(公財)日本中学校体育連盟バレーボール競技部における6人制ルールの取り扱いに則って行う。
2. リベロ・プレーヤーについて  
リプレースメントする選手同士はサイドライン上ですれ違うようにする。  
コート上の選手が5人または7人にならないようにする。  
リベロ・プレーヤーはチームキャプテンにもゲームキャプテンにもなることができる。
3. タイムアウトに入ったら、コートから離れなくてはならない。ただし、その位置については制限されない。タイムアウトは30秒間であるが、選手は、30秒を待たずにコートに戻ってもよい。（給水タイムを除く）ただし、タイムアウトの時間が短くなることはない。
4. ラインアップシートの訂正は、セカンドレフェリーに手渡した後は認められない。  
ただし、公式練習中に選手が負傷した場合、監督はファーストレフェリーに申し出て、負傷選手を変更することができる。ただし、変更できるのは負傷した選手のポジションのみである。
5. 監督は、タイムアウトを要求するときは、ハンドシグナルを示す。審判員が気付かない時は、口頭で伝えること。
6. 監督は試合中、自チームベンチ前のフリーゾーン内で、立ちながらも歩きながらも指示を出すことができる。ラリー中やラリー後に、監督における、選手への不適切な言動や、レフェリーの判定に影響を及ぼす行為に対しては、直ちに罰則を適用する。また、ラインジャッジの視界を遮っていたり、ラインジャッジの判定に影響を与えたりするような位置にいてはならない。
7. 監督・コーチ・マネージャー・選手ともに相手チームに対する威嚇的な態度、最終判定後に不満を示す態度や言葉を発してはならない。但しルールに関する質問はゲームキャプテンに限り許される。
8. コート上に5人だけ、または7人の選手がいるときには6人になるよう、サービスのホイッスルの前に促す。またポジション4にリベロがいる場合は、ファーストレフェリーはチームの正規の選手にリプレースメントするのをサービス許可のタイミングまで待つ。それでもリプレースメントが行われない場合は、セカンドレフェリーがリプレースメントさせ、その後遅延の罰則を与える。サービス許可のタイミングでその他の不法なリプレースメントが行われており、ファーストレフェリーが分かっている場合は、ポジショナルフォルトの罰則を与える。
9. ネット越しに相手を威嚇したり、ガッツポーズをしたりすることは警告の対象となる。
10. サービングチームの位置について  
サービスヒットの瞬間、両チームは(サーバーを除き)それぞれのコート内に位置していなければならない。レシービングチームの選手はサービスヒット時、ローテーション順に位置してい

なければならない。

サービングチームの選手はサービスヒット時、どの位置にいてもよい。

#### 11. スクリーンについて

サービングチームの選手は、1人または集団でスクリーンを形成してサービスヒットおよびサービスボールのコースが相手チームに見えないように妨害してはならない。

サービスが行われるとき、サービングチームの1人または、複数の選手が集団で腕を揺り動かしたり、飛び跳ねたり、左右に動いたりして、あるいは集団で固まって立ち、サービスヒットのボールとボールのコース両方をボールがネット垂直面に到達するまで隠すことでスクリーンとなる。

サービングチームの選手は、サービスボールがネットを越えるまで、手を頭より上にあげてはならない。しかし、頭を保護するために頭の後ろに手をあげることは許される。

意図的なスクリーンが疑われる場合、ファーストレフェリーはゲームキャプテンを通じてチームに注意することができる。